

平成 30 年度 農業農村工学会 資源循環研究部会 企画セッション13
「再生可能エネルギー生産に向けてのバイオマス利用の課題及び展望」開催報告

平成 30 年 9 月 6 日(木)、「平成 30 年度 農業農村工学会全国大会」において、資源循環研究部会(事務局 農研機構農村工学研究部門)は、企画セッション「再生可能エネルギー生産に向けてのバイオマス利用の課題及び展望」を開催し、下記の3つの講演を行いました。

その中で、南丹市八木バイオエコロジーセンターの管理を担当している清水由紀夫氏には、同センターの 20 年に及ぶ運転を踏まえたメタン発酵施設の保守管理や経済収支についてご報告いただきました。農業機械をバックグラウンドとする大土井克明氏(京都大学)からは、積載量 9t の特殊吸引車と 3t のバキューム車を組み合わせ、効率化したメタン発酵消化液の農地への輸送・散布のシミュレーション結果について報告がありました。また、衛生工学をバックグラウンドとする赤尾聡史氏(同志社大学)には、小型木質発電機の導入の経済効果についてお話しいただきました。

①畜産系メタン発酵施設のビジネスとしての可能性について

(公益財団法人 八木農業公社 清水由紀夫氏)

②メタン発酵消化液の液肥利用における効率的な輸送手段について

(株式会社明治 石風呂直人氏、京都大学 大土井克明氏他)

③木質バイオマス発電導入による地域経済効果の推計

(同志社大学 赤尾聡史氏他)



講演の様子(清水氏)